

◎ 納豆マスター運営事務局設立、キッズ納豆マスター認定制度がスタート

納豆マスター運営事務局がこのほど、全国納豆組合連合会、アメリカ大豆輸出協会の後援を受けて設立した。同事務局は納豆に関する専門知識を有し、納豆を通じて健康で豊かな社会生活に貢献できる人材の育成、認定を目的に、納豆マスター検定を実施する。

本年度はキッズ納豆マスター制度からスタートする。園児～小学校低学年向けを中心に納豆を好きになってもらうことを一義的とし、活動していく。子供達にクイズや紙芝居など通じ、納豆に慣れ親しんでもらう事を目的としている。

○ キッズ向けにねば～るくんが紙芝居を披露、輸入大豆についても学ぶ

その一環として、首都圏の保育園では先月、納豆の妖精ねば～る君（写真中央）をゲストに迎え、ねば～る君による紙芝居読み聞かせと、納豆キッズマスターの検定クイズが行われた。

納豆紙芝居「なっとうだいさくせん」は、大豆が納豆になるまでを学べるストーリーになっている。納豆の原料が大豆であること、納豆になるために藁に入ること、納豆を食べると元気になることを学べる。

紙芝居の後には、子供たちは先生と一緒に、納豆の原料や、菌、作り方などを学び検定クイズに挑んだ。納豆の原料の大豆多くは、米

国産が使用されていると教えられたときには、驚きの声があがった。検定クイズに無事合格し、ねば～る君から記念シールのプレゼントが贈られた。



最後に納豆の粘りや、混ぜ方などの特徴を取り入れた納豆体操を踊り、大興奮のうちに終了となった。

◎ 認知症予防への関心高い、40代から積極姿勢を示す一日清オイリオ調査

高齢化の進展により、25年には認知症患者が700万人になると言われている中で、日清オイリオグループの、中鎖脂肪酸認知症リスク対策プロジェクト「認知症予防に関する意識調査」によると、約8割が認知症という言葉をよく見聞きする、約7割が認知症にならないか心配している、約6割は予防に取り組みたいと回答しており、認知症、予防に対する意識の高さが伺えるとしている。

調査によると、「認知症・認知症予防という言葉をよく見聞きする」との回答が78.3%、「言葉が気になる」が69.4%となり、認知症や予防に関して高い関心を示しているとした。

また認知症に対する不安に関しては、「自身が認知症にならないか心配である」が65.8%となった。「認知症予防に取り組みたい」は58.1%となり、本格的な認知症社会到来を前に、予防の取り組みが活発になる事が予想されるとした。

予防の取り組みを開始したい年齢について

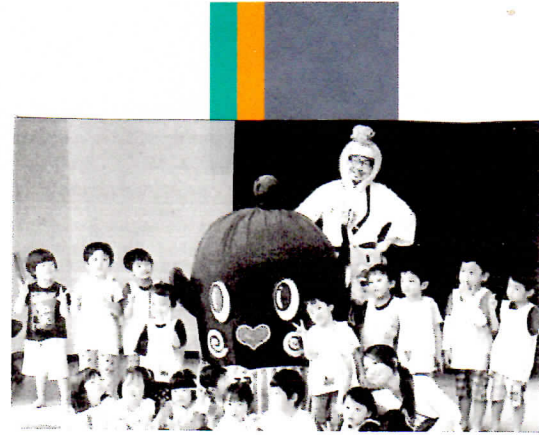
は、年代別で違いが見られた。60代では64歳、50代は55.8歳、40代は48.2歳となり、40代においても予防に対して積極的な姿勢を持っていることが明らかになった。

同社では40年以上、中鎖脂肪酸の研究を続けている。中鎖脂肪酸は、ココナッツや、パームフルーツ、母乳などに含まれる天然成分で、一般的な植物油に含まれる脂肪酸に比べ、すばやく消化・吸収されエネルギーになりやすいことから、医療現場で長く使われてきた実績がある。

認知症の中でもアルツハイマー型が最も多いとされ、脳のエネルギー不足が原因のひとつとして研究が進められている。脳のエネルギー源は通常ブドウ糖だが、不足時や、ブドウ糖をうまく使用できない場合は、ケトン体を代替エネルギーとして利用しているとされている。近年の研究では、体内で効率よくケトン体を作る中鎖脂肪酸が、認知症リスク対策として注目を集めているとしている。

DAILY SOYBEAN & OIL SEEDS

October 8, 2015



HEAD LINE:

Establishment of “NATTO MASTER” Operation Office.

Kids Natto Master Certification System Launched.

Nebaru-kun (known as popular natto fairy) will show picture-story of natto to kids, who will learn about imported soybeans

- © **Natto Master Operation Office was launched.** As a kick off year, Kids Master System begun under the sponsorship of Natto Cooperative Society Federation and U.S. Soybean Export Council. The office will implement Natto Master Certification for the purpose of education and authorization individuals who process specialized knowledge of natto and willing to contribute healthy & wealthy society via Natto.

This year they start from Kids Natto Master and will focus on kids from kindergarten to those in lower classes of primary schools simply aiming them to get them love natto (*in Japan, we say natto should eat from childhood, otherwise, it would not be easy to become to like after adults hood. If they like in childhoods, they will continue to love natto in entire life.*). Therefore, the office goal is to make kids more familiarize with natto via quizzes & picture-play.

- © **Nebaru-kun entertained Natto Picture Play to kids. Learn about imported soybeans.** As a part of such initiatives, the office invited the natto fairy, known as Nebaru-kun, to a kindergarten located in Tokyo to play a picture-story of natto and gave the kids natto master quizzes. Natto picture story, titled, “Mission Natto” is a story describing followings; how soy becomes natto, soybeans as main ingredients of natto, the soybeans have to stay in straw to become natto, and natto make you powerful. After picture play, the kids studied about natto ingredients, bacillus natto, and how to make natto with teacher and had quizzes. When the teacher told kids, “Most of soybeans of natto come from the United States of America!”, we heard the shouts of surprises and discoveries. Nebaru-kun then gave the kids sticker of a prize for passing the exam. At the end kids danced natto exercise which expressed natto’s sickness and steering technics and the program ended, while all kids looked very thrilled by the event.